

(紫斑病性腎炎，腸出血，腸重積，腸管穿孔，脳出血)をみる．成人例では腎不全に至るリスクが高く，注意を要する．

3. 蕁麻疹様血管炎 urticarial vasculitis

24時間以上持続する蕁麻疹様皮疹をみた場合は本症を疑う．蕁麻疹様あるいは多形紅斑様の皮疹を繰り返し，紫斑や色素沈着を伴う(図11.6)．病理組織学的には真皮上層に白血球破碎性血管炎の像を認める．本症は特発性のものと，基礎疾患(とくにSLE)を有するものがある．多くは低補体血症を伴い〔低補体血症性蕁麻疹様血管炎(hypocomplementemic urticarial vasculitis)〕，関節痛や腹痛，腎症などの他臓器症状を呈する場合もある．

4. 持久性隆起性紅斑 erythema elevatum diutinum；EED

中年以降の男女に好発し，肘や膝などの関節伸側に対称性に出現する．最初は軽度隆起した赤紫色の局面であるが，次第に線維化をきたしケロイド状となる．まれに水疱や潰瘍を形成することもある(図11.7)．関節炎を伴うこともある．病理組織学的に白血球破碎性血管炎がみられる．自覚症状はほとんどなく慢性に経過する．血液疾患(とくに単クローン性IgA血症)などを合併することがある．治療はDDSが有効である．

5. 顔面肉芽腫^{にくげ} granuloma faciale

顔面に境界明瞭な紅褐色の局面や小結節を呈する(図11.8)．日光曝露が関与するとされるが原因不明である．病理組織学的に肉芽腫はみられず，白血球破碎性血管炎の像を呈する．色素レーザー療法，ステロイド局所注射やDDSなどが行われるが治療抵抗性である．

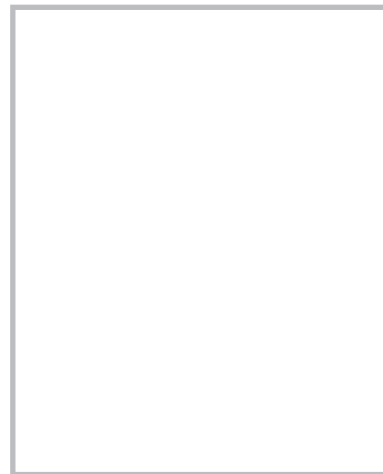


図11.4② IgA 血管炎 (IgA vasculitis)

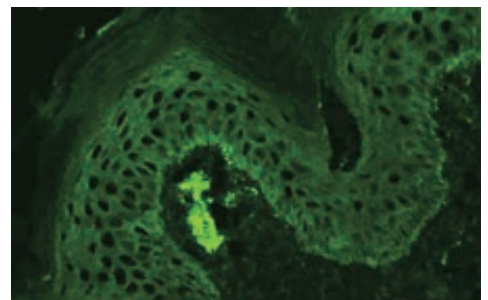


図11.5 IgA 血管炎の蛍光抗体直接法
病変部の真皮上層の血管壁にIgAが沈着している．



図11.6 蕁麻疹様血管炎 (urticarial vasculitis)
紫斑を伴う紅斑が多発しており，膨疹を伴っている．



図11.8 顔面肉芽腫 (granuloma faciale)